

中野榮三郎 財団法人興風会第三代理事長

中野榮三郎(号は長榮)は、1887(明治20)年4月18日、野田町(現在の野田市)に野田醤油株式会社(現在のキッコーマン株式会社)初代社長の茂木七郎右衛門の二男として誕生。後に叔父である中野長兵衛の養子となり、1918(大正7)年1月に同社に入社。その後、卓越した経営手腕を發揮し、1946(昭和21)年2月に同社第四代社長に、また同月には「財団法人興風会」三代理事長にも就任(～1981年12月21日)します。さらに、戦後の混乱期の中で同社を興隆に導き1958(昭和33)年退任しますが、その間も野田商工会議所会頭、利根コカ・コーラボトリング株式会社初代社長、経団連理事、日本醤油協会理事など数々の要職を歴任。1960(昭和35)年には、野田市初の名誉市民にも推戴されました。

一方、慶應義塾大学在学中から学業に専念する傍ら、柔道部に入部。1905(明治38)年に講道館初段を許され、4段の時に講道館の大紅白試合に大将として出場、1954(昭和29)年5月には、講道館8段に昇段しました。先代が野田醤油株式会社の元本社を武道場「春風館」として残したことで長榮翁は柔剣道場や弓道場の整備も行い、地域の青少年の身体の鍛錬の場として提供されました。さらに、育英事業やスポーツ振興などに尽力され、1988(昭和63)年7月9日、101歳で死去しました。

今回新たに確認された書「以和為貴」は、長榮翁94歳の時の揮毫で、聖徳太子の十七条憲



法が出典です。その意味は、「和」を何よりも尊いと考え、体裁を大切にするのではなく、自分自身に対して正直に不満や意見は互いに言うことで理解を深める「和の精神」とされています。

なお、興風会館の第一会議室にも同翁96歳時の墨書きが壁面の中央に掲げられています。

[参考資料] 『Microsoft Bing』Chokotty／『野田市体育協会創立40周年記念誌 闘魂』野田市体育協会・1987年10月10日発行／『野田市名誉市民 故 中野榮三郎翁合同葬』次第・1988年7月18日／『キッコーマン株式会社八十年史』キッコーマン株式会社・2000年10月19日発行／『興風会館物語－醤油の町のロマネスク』山本文男・財興風会・2005年12月20日発行